

“みんなが楽しい、みんなで楽しい” 体育授業を目指して

講師 愛媛大学 教授 日野 克博 氏

1 はじめに

○運動は思考と行動をつなぐことが大切・・・できない時に体の中は成長している

→できないときはゆっくりと

○温新知故・・・新しきを温めていくと故きを知る(故きに戻る)

体を動かす! 心を動かす!(もっとやってみたい、楽しかったが大事)

○体育授業で大切にしたいこと

・どれだけ動いているか、どんな表情をしているか、何を学習しているかという視点で観察

【基礎的条件】授業の勢い(運動学習時間の確保)+授業の雰囲気(良好な関係)

→基礎(良好な関係・信頼)・基本(授業のルール)・・・体育授業の前提

⇒学級経営と体育授業は密接にかかわっている

【内容的条件】各授業の学習内容(目標、内容、方法、評価など)

⇒学習指導計画や学習指導案に示されている

2 どのような体育授業を目指すのか?

○めざす授業(子供の姿)を明確に!

・運動が苦手な子や意欲的でない子も楽しめる体育授業を!

・子供が主体的に課題解決に取り組む体育授業を!

・子供にやさしい体育授業を! (例)短距離走(スピードアップ走)

・目標設定の工夫→達成するための知識、技能の指導

○新学習指導要領

・何を教えるか→何ができるようになるか

内容は(あまり)変わらないけれど授業は変わらないといけない, 子供は変わらないといけない

⇒みんなが楽しい授業、みんなで楽しい授業を!

(例)体づくり運動(縄跳び運動)

【個→ペア→グループ→全体へとつなげる学習形態へ】

○体育科ならではの・・・

・心と体を一体として(身体性)

・みんなが楽しむ(多様性)

・みんなで楽しむ(社会性)

⇒心が出出る教科【体育授業は子供の“愛顔”で勝負する!】

前向きな気持ちと思いやりの心が終結した愛のある笑顔=愛顔

○「やってみたい!」から「もっとやってみたい!」へ⇒『主体的・対話的で深い学び』

・「できた!なるほど!最高です!すっきり!へえー!・・・」 子供のつぶやき

・「頭で覚えたことはいつか忘れる 心で覚えたことは一生残る

心と体で覚えたことは一生を豊かにする(豊かなスポーツライフ)」

“本気の課題解決” 出会い→挑戦→感動

好奇心→探究心→自信「すべての子供たちに運動に対する自信をつけること」

3 どのようにしてよい授業を実現するか？

「短距離走・リレー」

- ・操作＋タイミング(こちらを重視) → タイミング(同調)の支援、指導…自然に操作も

○授業づくりの視点

- ・運動の本質的課題から
- ・子供のつまずきから
- ・(幹を)教えて子供が考える授業

○運動が苦手な子はどこにつまづいているのか

- ・運動のリズム(力の強弱とタイミング)
- ・運動の組み合わせ(動きのつながり、先取り)

「ハードル走」

○指導内容(3つ程度)「幹」

- ・姿勢・構え ・動き方(手や足をどのように動かすか…操作) ・リズム(力の入れ具合とタイミング)

○よりよい授業に向けて

子供にとって

- ・課題がやさしい(やりたい！と思える課題設定を)
- ・条件がやさしい(少しずつ段階を踏めるように)
- ・言葉がやさしい(分かりやすい表現で)

授業を！

○根・幹・枝の視点にたった授業づくり

- ・じっくり考えて→表現する
 - ・瞬時に考えて→動く
- ⇒運動の行い方(幹)の指導の重要性

「投の運動」

○投動作の構造(幹)

『ボールの速さ とび出す角度 とび出す高さ ボールの回転』

- ・タオルを使ったストレッチ、ダンス、ポーズ
- ・フォームをつくる活動(構え、動作、強弱)

幹を教えて、枝・葉を考えさせる

「戦術学習」(幹)

- フォーメーション ○仲間(子供の特徴)
- コンビネーション ○空間(スペース)
- コミュニケーション ○時間(スピードとタイミング)

○「自主性」「主体的」に違いは？

「授業の○○を誰が決定したか？」

習得…教師の意思決定(指導性) ⇔ 自得…子供の意思決定(主体性)

○「型」の重視と「気づき」の重視のバランス

→いつ、何を子供たちに委ねる(意思決定)させるか？

教師の働きかけ

- ・ティーチング→教える
 - ・コーチング →引き出す
- ⇒ 動きを引き出す 感覚的な言葉
思考を引き出す 意図的な発問
行動を引き出す 心に響く言葉

『やさしい体育』『みんなが楽しい、みんなで楽しい』『シンプルで奥深い』授業づくりを！